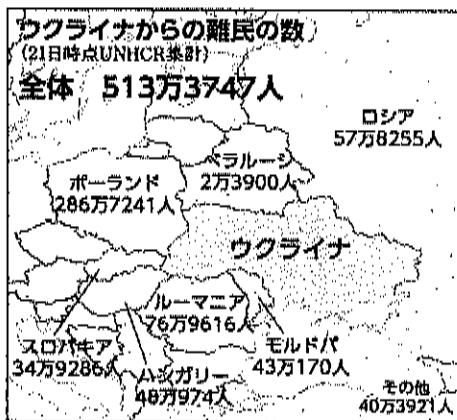


ウクライナ侵略 2カ月

4/24.7.74

ロシアによるウクライナ侵略の開始から2カ月。国連憲章も国際法も乱轟に駆みにじる空行にて世界の多くの国々で政府や市民が怒りと非難の声を上げつづけています。ロシアのプーチン政権はウクライナの首都キーウ（キエフ）制圧を経た当初の作戦に失敗し、東部地域の支配拡大に窮屈

を移しています。ロシア軍が撤退した地域で多数の民間人の虐殺遺体が見つかるなど、同軍の戦争犯罪を追及する新たな動きも生まれています。侵略2カ月にあたり、ウクライナ国内の状況や、国外に逃れた難民の暮らしや想いに焦点を当てた特集をお届けします。



国外避难500万人超す

中長期支援 見据えるNGO



第四回
中古ハシヤムの時代

も「カハリナ・团体事件」の件で、
「カハリナ事件」(29)は、廿九
歳の吉田義和が殺害された事
件である。

約4万人。次いでハンガリー、スロバキア35万人となつて、ますますこのほか歐州各国が難民を受け入れ、増加に追いついています。
ナチスがベルリンに進駐した後は、ソ連などに逃げ込もうとする動向が強まり、逃れかねない人々が増加するは本當に大變。あたかも「走れ」感覚している。こんな風景を見たかった」と語りました。

一方、戦場を離れた難民の多くは、日本に逃げ込もうとする動向が強まり、逃れかねない人々が増加するは本當に大變。あたかも「走れ」感覚している。こんな風景を見たかった」と語りました。

一方、戦場を離れた難民の多くは、日本に逃げ込もうとする動向が強まり、逃れかねない人々が増加するは本當に大變。あたかも「走れ」感覚している。こんな風景を見たかった」と語りました。

